

釧路湿原自然再生協議会  
第39回 再生普及小委員会  
(第13回 地域づくり小委員会との合同小委員会)  
議事要旨

日時：令和5年12月1日（金）15：05～16：20

場所：釧路地方合同庁舎5階共用第1会議室

オンライン（Zoom）併用開催

1. 開会
2. 議事
  - 1) 再生普及小委員会の活動報告
  - 2) その他
3. 閉会

●事務局

（資料の確認）

（委員長への進行依頼）

●委員長

本日初めて再生普及小委員会へ参加されている地域づくり小委員会委員にとって、分かりづらい言葉遣いなどがあるかもしれない。適宜、質問いただきたい。

●事務局

【議事1. 再生普及小委員会の活動報告】

資料に基づき説明

（資料2. 第4期釧路湿原自然再生普及行動計画の取組状況について スライド1～9頁）

湿原学習に関連して委員より発表をお願いする。

●委員

資料に基づき説明

（参考資料）

本年9月24日（日曜日）、釧路市生涯学習センターにおいてラムサール条約釧路会議30周年記念シンポジウムを開催した。

午前中は湿原学習を行っている釧路管内の小・中・高校生による湿原学習発表会を行った。7校の学校が参加し、各校10分の発表を行い、発表後、講評者からコメントをいただいた。全ての発表後、全発表者へ記念品をお渡しした。

#### ●事務局

##### 【議事1. 再生普及小委員会の活動報告】

資料に基づき説明

(資料2. 第4期釧路湿原自然再生普及行動計画の取組状況について スライド10～13頁)

#### ●委員長

新型コロナウイルスの感染が蔓延していた時期、フィールドに出ることなどが難しくなると考えていた。しかし、その中でどのように工夫をするかなど、新しいものの考え方などを見つけるきっかけになった。

小・中・高校生を対象にした学校での釧路湿原について、学習及びそのサポートを再生普及小委員会に設置している学校支援ワーキンググループが担っており、実施した内容を記載している。

子どもたちが教わるだけ、先生が教えるだけということではなく、疑問を感じ、自分から発想し、調べるということを自分で行うための一つのきっかけとして、湿原学習はとても良い素材だと思っている。

#### ●委員

人々が「湿原とつながる」という取り組みの目的は、湿原の仕組み、自然再生事業を取り組む理由、自然再生事業の目指すゴールについて、実際に湿原の生態系の中に入って行って実体験しながら理解してもらう機会を作ることである。

しかし、その理解を深める人たちの絶対数がまだまだ少ない。学校教育、社会教育などの生涯教育なども提携して実施しており、今後もさらに進めていく。

#### ●委員長

支援できる学校の範囲というのは限られているが、少しずつでも広げていきたい。

#### ●委員

インフラツアーは一般の方(大人)が対象である。感想にあったように、ありきたりの教科書的な話より、そこで働いている人の生の声を聞くことができると、とても喜ばれる。

そのような意味で、資料13頁のような様々な方と連携した取り組みは、とても良いという感想を持った。

## ●委員長

地域には様々な方がおり、様々な知恵や知識を持った方がいると改めて気付かされる。別の取り組みで焚き火をする機会があった。学校の先生は知識や経験が無いため薪を割ることができなかったが、そこへおじいさんが出て来て簡単に薪を割ってくれた。それを見た子どもたちにとって、その方はヒーローである。つまり、説明ができるだけでなく、実際にできる人、やっている人に会えるということが色々なきっかけにもなる。今後もさらに協力してくださる方々、団体を探していきたい。

## ●事務局

### 【議事 1. 再生普及小委員会の活動報告】

資料に基づき説明

(資料 2. 第 4 期釧路湿原自然再生普及行動計画の取組状況について スライド 14 頁～)

## ●事務局

釧路開発建設部で実施した現地見学会について紹介する。

(別添資料 2-1 2 頁)

幌呂地区湿原再生現地見学会は鶴居村下幌呂地区にある未利用農地を湿原植生に戻す取り組み箇所において、7 月 22 日に開催し、参加者は 17 名であった。開催目的は自然再生事業の理解を深めていただくことである。見学内容は、事業実施後の湿原植生の復元状況、湿原の泥炭の観察のほか、ヨシの移植体験、ハンノキの環状剥皮を行う巻枯らし体験など、実際に湿原再生に参加していただいた。参加者からの感想は、「実際に自然再生に参加して、自然再生の取り組みの場所に湿原の植生が戻ってきていることが分かった」などと好評であった。

(別添資料 2-1 4 頁)

茅沼地区旧川復元現地見学会は釧路川茅沼地区、ヌマオロ地区で旧川復元地の 2 カ所において見学会を行った。

茅沼地区では、釧路川をカヌーで下り旧川復元箇所まで移動しながら、湿原の植生の回復状況、土砂の堆積状況などの復元効果を体感していただいた。

ヌマオロ地区では参加者が実際に川に入り、生息するカワシンジュガイや魚類の調査を行っていただいた。参加者からは、旧川復元が一步步着実に実現されているという感想や、絶滅危惧種のカワシンジュガイを初めて知り、観察できて良かったという感想をいただいた。

(別添資料 2-1 8 頁)

水・物質循環現地見学会は 11 月 3 日に開催した。新釧路川の右岸堤防までをバスで移動後、釧路湿原の水・物質循環の仕組みについての中津川委員長の解説(水・物質循環小委員会委員長)のほか、釧路湿原での治水事業による貯水効果や、グリーンインフラ効果について解説を行った。その後、キラコタン岬に移動し、湿原に流れ込む湧水や植生などを見学し、釧路湿原の地質構造、

水の循環、土砂の流入、物質の循環について説明を行った。午後からはコッタロ湿原へ移動し、UAV を使って上空からのライブ映像を見ながらハンノキ林の分布状況の変化について解説を行った。最後に釧路川の二本松地区において、露頭（地盤が剥き出しになっている崖の地層）を見学しながら釧路湿原の成り立ちについて解説した。

参加者からは、釧路湿原の水の動きや地質学的な湿原の成り立ちが分かって良かったという意見や、ドローンを使用した湿原のライブ映像に感動したというような意見をいただいた。

## ●委員長

（別冊資料：第4期釧路湿原自然再生普及行動計画、2020年9月、12頁）

再生普及小委員会と地域づくり小委員会は元々一つの委員会であった。再生普及小委員会の普及の役割は、全ての小委員会に関わっていることから、地域づくり小委員会と分けたという経緯がある。また、再生普及小委員会では再生普及推進のための連携チームを別途作り、普及推進について集中した検討を行っている。

## ●委員

釧路湿原森林ふれあい推進センターによる取り組みを紹介する。

（別添資料 2-1 5～6頁）

林齢70年以上の人工林であった雷別地区自然再生事業地は、2000年に気象害による土壌凍結等が起こった影響から、トドマツが枯死し多くのササ地が発生した場所である。水土保持機能を高めるために広葉樹を育てるなど、釧路湿原源流部の森林再生に取り組んでいる。植樹の取り組みは、ボランティアを中心として実施しており15年ほど続いている。活動当初からあった釧路高専の学生参加は、コロナウイルスの感染蔓延によりここ数年無いが、産学官協働の取り組みも行っていった。

（別添資料 2-1 5頁）

企業の社会的貢献活動の一環としての植樹等の実施は、今回で6回目となった。今年は前年の倍以上の28名の参加があり、参加者からは「なかなか来ることができない森に触れられて非常に良かった」という感想があった。参加企業からは、活動を引き続き行うと言っていた。

雷別地区では、エゾシカや野ウサギによる食害が多いため、保護管を使って植栽木を保護している。この保護管設置による食害防止効果は高く、植樹木は順調に成長している。

（別添資料 2-1 6頁）

雷別ドングリ倶楽部（森林ボランティア団体、主に釧路市、釧路町在住の15名）の活動により毎年植樹等を行っている。

これまではプラスチック製の保護管を使用していたが、今年初めて生分解性の保護管を導入して取り付けた。今後も環境に配慮した山作りが重要だと考えている。

## ●委員長

雷別地区の森林では、若い人たちに対して「植林に行こう」という募集を行い、植樹等を実施している。

#### ●委員

皆さん非常に素晴らしい活動を実施されており、是非継続して実施していただきたい。アンケートの内訳では参加者は年齢層が高いようだが、対象者を10代、20代にする、親子で体験できるものにするなどしてはどうか。また、一般市民が参加する市民講座の開催回数を1回から2回にしてはどうか。

#### ●事務局

今後はSNSなどを活用して、若い世代の参加を増やす試みを検討したい。

#### ●委員長

市民講座はワンダグリーンダニュースに掲載しているが、更に広く皆さんに知っていただく努力をしていきたい。

#### ●委員

再生普及小委員会に初めて参加し、色々な切り口や手段により普及活動を行っていることに大変驚いた。釧路河川事務所では堤防工事や護岸工事なども行っているが、一般の方にはほとんど知られていない。一方、自然再生についてはご存知の方が多く、どうしてなのか疑問であったが本日の話で理解できた。

カヌーやホーストレッキングをガイドする方が、再生普及小委員会のツール・ノウハウの利用やイベントに参加することで、釧路湿原のことを一層学ぶ機会、きっかけになると思う。

観光客が「カヌーが楽しかった」、「馬が可愛いらしかった」という感想を持つことだけではなく、カヌーから見た湿原や馬に乗って眺めた湿原が素晴らしかったという体験が増えると良い。

最終的には釧路湿原に来た人が自分の住むところに帰った後に、湿原を気にかけてくれたり、応援してくれたりするようになると良い。

#### ●委員長

一般市民が参加する機会を広げたいと常に思っている。学生や会社員などは平日の日中は参加が難しく、週末にしか参加できない人も多くいる。そのため、実際には参加者が高齢者に偏るという現状がある。参加者の立場で考えたいが、難しい問題がたくさんある。

#### ●委員

再生普及小委員会でのターゲットが限られてきている。それぞれのターゲット目標をミックスして実現することが、現在抱えている利用者の課題を解決する方法になるのではないかと思

う。

地域づくり小委員会で現在行われているツーリズムのプログラムに、自然再生事業において皆さんに伝えたいことを組み込んではいかがでしょうか。ツーリズムに参加する方々が口コミで色々な人たちに伝えてくれる。

例えば、蛇行した河川をカヌーで移動する際、「兩岸の風景がこんな風に変わりますよね。変わる理由はこうこうこうだよね。」と説明しながら、岸に寄って確認してみる。自然河川と直線河川の風景の変わり方が違うことなどを説明することで、カヌーに乗っている人の感じ方も変わると思う。過去にカヌーツアーに参加した人には、十分湿原を楽しんでもらえ、自然再生事業で蛇行河川を復元しようとしている取り組みの意義も分かってもらえたという経験があった。

是非、今回を機会に両小委員会がタッグを組み、これから一歩進むことで、課題が解決できるのではないかと大いに期待する。

#### ●委員長

別添資料 2-2 に参加者アンケートの結果がある。後ほど特に自由記載の部分を読んでいただきたい。

#### ●委員

今回の合同開催を通じて、情報共有が図られ有益だった。2つの小委員会が再編成して1+1が1になるのではなく、1+1が3になる進め方を期待する。(コスト手間は1+1=1で結構)

釧路湿原自然再生事業が開始し20年が経過したことはとても感慨深い。事業開始当初、故辻井達一先生と目標達成時期を30年先ぐらいが良い。と話していた記憶がある。あの世で、辻井先生に会った時に、先生の考えも素晴らしかったが、我々はここまで成果を上げましたよと少し自慢をしたい。

釧路湿原自然再生事業の成果は世界に発信できる情報だと思うので、実施したことの報告だけでなく、実施したことで、何がどうなったか、変化・成果を含めてまとめることが必要である。

参加者アンケートは、イベント実施直後だけでなく、半年後、1年後にもう一度アンケートを取り、「生活が変わった」、「考え方が変わった」というように応援団、サポーターになってくれたことを確認することも必要ではないか。

#### ●事務局

自然再生事業の実施については報告だけではなく、試行錯誤のプロセスをまとめ、持続性の確認ができるような指標や評価する仕組みを考えていきたい。

第39回再生普及小委員会を閉会とする。

(終了)